

通常の学級における「気になる」行動へのユニバーサルな支援の工夫

—大型ディスプレイによる「聴覚・視覚支援」を活用する自作支援ツール—

土井 淳¹ 佐藤 慎二²

Universal Designed Support for Children with Educational Needs in Regular Classes —The Self-made Support Tool with a Large Display and Sound Effect—

DOI Jun SATO Shinji

小学校の通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童の授業の「気になる」行動の減少を目指して、ユニバーサルデザインの視点に基づく画像や効果音を取り入れた自作支援ツールを作成した。本ツールを活用した授業（主要4教科及び書写）を総計66単位時間実施し、その効果の検証を授業のビデオ分析と、児童及び学級担任への質問紙調査を通して行った。その結果、児童の「気になる」行動の減少が見られただけでなく、学級内の他の児童にも有効性が示された。また、授業における言葉での指示の減少や簡単な資料提示が授業支援となり、教員にとっても本ツールが有効であることを指摘した。

キーワード：通常の学級、「気になる」行動、ユニバーサルデザイン、画像や効果音

1 問題と目的

文部科学省による令和3年度の行政説明資料によれば、直近10年間で義務教育段階の児童生徒数は、1割減少する一方で、特別支援教育を受ける児童生徒数はほぼ倍増している。また、「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」（令和4年）では、小中学校における特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合は推定値8.8%と示された。この8.8%の児童生徒に対して、実際に授業時間内で個別の配慮・支援を行っているとした割合は約54.9%である。さらに、校内委員会において特別な教育的支援が必要と判断されている割合は推定値28.7%であり、約70%の児童生徒については「そもそも校内委員会での検討自体がなされていないと考えられる」とし「学校全体として取り組めていない状況が見受けられる」と指摘された。

千葉県でも、「第3次千葉県特別支援教育推進基本計画」の施策の中で、「通常の学級における発達

障害のある児童生徒への支援」を掲げており、通常の学級における特別支援教育の充実が一層求められている。通常の学級における特別支援教育の充実のためには、学級担任の特別支援教育への理解とともに具体的な手立てが求められている。

近年では、通常の学級における特別支援教育モデルとしてユニバーサルデザインが提唱・実践されている。すなわち、「特別な教育的支援のある児童生徒には『ないと困る支援』であり、どの児童生徒にも『あると便利で・役に立つ支援』を増やす」ことで、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を要する児童生徒への指導を対象としながら、他の児童生徒も含む効果的な全体指導へとつなげるという理念・方法論である。

その具体化の一例として、タブレット端末や大型ディスプレイ等のICT機器の利活用がある。しかし、それらに着目する実践研究の多くは、「視覚支援」の有用性を強調するケースが多く、「聴覚支援」の活用やその効果に注目・言及する研究は少ない。

1 習志野市立谷津小学校

2 植草学園短期大学

そこで、本研究では、特別な教育的支援のある児童の学習態度や学習意欲の向上を目指し、大型ディスプレイと効果音も活用する自作支援ツールを開発し、その有効性を検証することを目的とする。

2 研究 I - 質問紙調査

2.1 教員への質問紙調査

2.1.1 目的

所属小学校の教員を対象に通常の学級に在籍する注意力・集中力の持続が難しい児童の現状や課題、ICTの活用の状況を明らかにする。

2.1.2 対象

所属小学校教員 54名 ($n=54$ 回答率96%)

2.1.3 期間 令和4年6月～7月

2.1.4 結果と考察

通常の学級において、手いたずらや話を聞いていない等の注意力・集中力の持続が難しい児童が全学級で存在することが示された。一方で特別支援学級での経験がある教員は少ない。本調査後の聞き取りの結果も踏まえるとタブレット端末の活用は苦手とする教員が多いが、大型ディスプレイを使った授業(資料の提示や学習動画等)は多くの教員が実践している。(表1)

表1 教職員アンケート

学校に気になる児童はいるか。

気になる児童は多くいる(3名以上)	39名
気になる児童はいる(1～2名)	13名
いない	0名

特別支援学級の有無

ある	6名
ない	41名

大型ディスプレイの活用頻度

ほぼ毎日活用している	20名
週に2～3回活用している	20名
あまり活用していない	10名
ほとんど活用していない	2名

$n=52$

特別支援学級の経験が少ない教員が多いことから、各学級に存在する特別な教育的支援を要する児童に対して、どのような支援をすればよいのか悩む

ことが多いことが示唆された。先行研究や筆者らの経験も踏まえ、視覚的な支援が有効であることから、活用が活発化している大型ディスプレイを活用する。あわせて、聴覚支援として効果音を合図に「気付き」を促し、画面から視覚的に指示をすることで、個別に指示を出す回数を減らし授業が滞ることなく展開できるのではないかと考えた。

個別支援を意識した全体指導により多くの児童の注意力・集中力を高める大型ディスプレイと効果音を活用する自作支援ツールを作成したいと考えた。

2.2 児童への質問紙調査

2.2.1 目的

特別な教育的支援の例として、注意力・集中力に焦点を当て、児童の現状や課題を明らかにする。

2.2.2 対象 所属小学校第5学年 220名

($n=212$ 回答率96%)

2.2.3 期間 令和4年6月～7月

2.2.4 結果と考察

授業中に集中できなかったことがあるかの質問に対して、約60%の児童があると回答した。その時にしてしまう行動は、「ぼーっとしてしまう」、「別のことを考えてしまう」が多いことが分かった。児童が、学習に集中して考え込んでいる時との違いを外見から判断することが難しいことが示唆された。興

表2 児童へのアンケート

集中できない時してしまう行動は何ですか。

ぼーっとしてしまう	70名
別のことを考えてしまう	67名
窓の外や廊下をみてしまう	40名
手遊びをしてしまう	36名
ノートに落書きをしてしまう	29名
友達に話しかけてしまう	29名

どんな授業が好きですか。

タブレットを使う	156名
友達やグループで協力する	135名
画像や動画を見る	125名
教師の分かりやすい説明	84名
たくさん発表できる	58名
自分で問題を解く	57名

$n=212$

味関心のある授業については、GIGAスクール構想やコロナ禍の影響もあり、個人で学習する機会が増えたことから、「タブレット端末を使う」や「画像や動画を見る」というICT機器を使った活動が上位に来ている。(表2)

以上の結果から、授業に集中できないと回答した児童が多いことが明らかになった。一方、ICT機器への興味関心が高いことから、その活用により児童の気になる行動を減らし、前向きに学習に取り組む態度を支援することができるのではないかと考えた。

3 研究Ⅱ－自作支援ツールの作成

3.1 自作支援ツールの開発

3.1.1 Microsoft社のPowerPointの活用

プレゼンテーションソフトウェアであるパワーポイントは、多くの学校で使用されている。多くの教員が触れたことのあるこのソフトを使って、資料の作成や図形、表などを組み合わせ、視覚的に分かりやすいスライドを作成する。誰でも使いやすく、作成しやすいツールとすることで、教育現場でも多く活用できると考えた。

3.1.2 効果音の活用

本研究では、大型ディスプレイの画面に注目させるために「聴覚支援」として効果音を活用する。効果音が鳴ることで児童の気付きを促し、画面も活用して説明や指示を伝える。効果音は、テレビのニュース番組やインターネット動画等を参考にし、短くて聞き取りやすい音を使用する。音源は、作曲アプリや効果音集・環境音集アプリ等を活用した。

3.2 自作支援ツール「アクションメーカー」

3.2.1 「アクションメーカー」(以下AM)の構造

展開する授業に合わせ1単位時間(45分)の流れや学習行動を支援するコマンドを作り、教員が瞬時に説明や指示などを大型ディスプレイの画面から伝えられるツールを作成した。画面左側は、授業の展開を示し、画面の右側は、授業における個別支援を踏まえた指示を示している。(図1)

3.2.2 AMの活用方法【左側】の説明(図2)

画面左側にはその日の1単位時間(45分)の授業の流れが表示されている。それぞれの番号のボタン

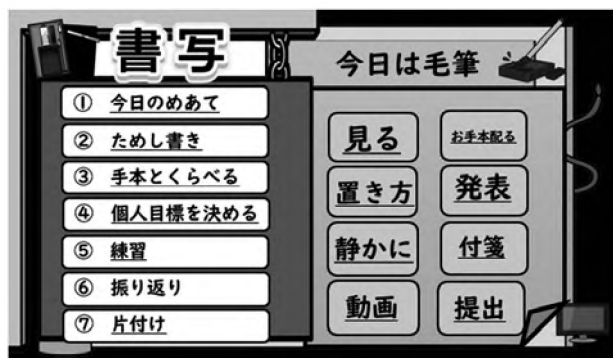


図1 アクションメーカーのホーム画面

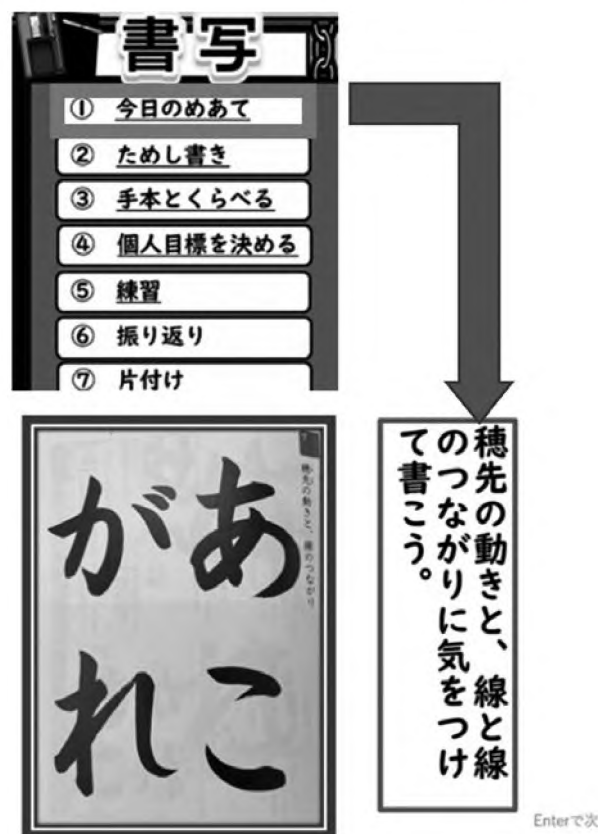


図2 アクションメーカーの左側

を押すと、より詳しい説明の画像が表示され、口頭による指示をしなくても、視覚による指示で伝わるようになっている。例えば、「①今日のめあて」を押すと、大型ディスプレイから効果音が鳴り詳しい説明の画面に移動する。

児童の活動に合わせて、手本やポイント等をすぐに表示することができる。

3.2.3 AMの活用方法【右側】の説明(図3)

画面右側には具体的な「説明や指示のコマンド」がある。このコマンドを必要に応じて教員が押すことにより、個別指導を含む全体への指示や支援をすることができる。特別な教育的支援を要する児童が

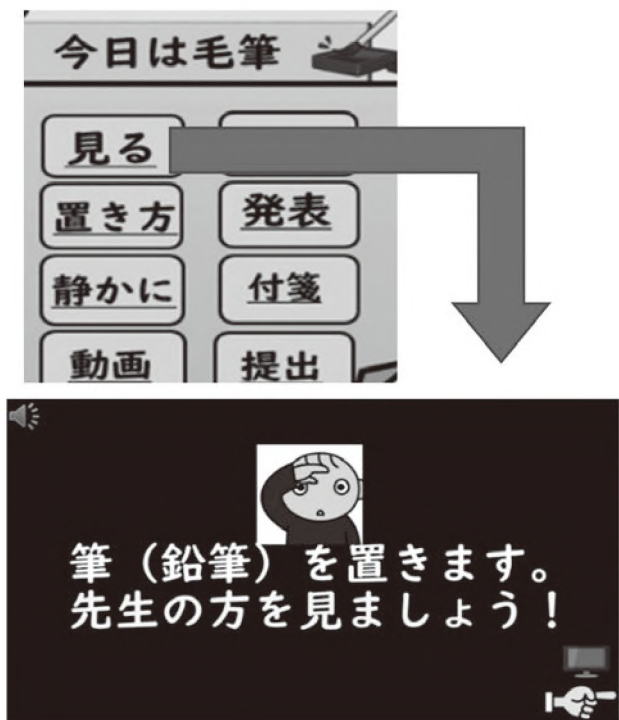


図3 アクションメーカーの右側

問題となる行動をとっている時は、指示に気づかず個別に注意を受けることが少なくない。

その対策として、まず効果音を流し、画面に注目させ、これからすべき事を伝えるようにした。例えば、「見る」というコマンドを押すと、効果音が流れ、「筆や鉛筆を置いて、先生を見ましょう」とした。効果音で児童を注目させて、分かりやすいイラストで指示を出し行動させることとした。

4 研究Ⅲ－検証授業

4.1 検証授業の内容

4.1.1 検証授業の内容と抽出児の選出

○各学級担任6名から聞き取りを行い特別な教育的支援を要する児童を抽出児として選出する。また、学習面、生活面共に平均的な定型発達児も選出し、各学級2名合計12名の児童を対象とした。

○対象とする行動（以下、「気になる」行動）は、「文部科学省 特別支援学校教育要領 学習指導要領解説自立活動編」を参照し、以下の5点として検証を行う。

- ① 放心状態の表情
- ② 関係のないところを見ている
- ③ 落ち着きがない
- ④ おしゃべり

⑤ 指示されたことに取り組みない

○検証する教科は、各学級で1つとして抽出児の問題となる行動が最も表れやすい主要4教科のうちから1つを対象とした。あわせて、書写の授業も対象とする。

○検証前の7月の授業をベースラインとし、AMを活用して行った9～10月の検証授業と比較する。

4.1.2 分析方法（インターバル測定）

6学級で展開された国語、算数、理科、社会の「初回－中盤－終盤」の3回と、書写は8回の授業全66時間を録画し分析対象とした。1単位時間（45分間）の授業を15秒毎に区切り、児童の「気になる」行動が3秒間継続した場合を1カウントとして数値化する。（表3）

表3 インターバル測定 検証表

	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
1.00分-1.15分												
1.15分-1.30分												
1.30分-1.45分												
1.45分-1.60分												
1.60分-1.75分												
1.75分-1.90分												
1.90分-2.05分												
2.05分-2.20分												
2.20分-2.35分												
2.35分-2.50分												
2.50分-2.65分												
2.65分-2.80分												
2.80分-2.95分												
2.95分-3.10分												
3.10分-3.25分												
3.25分-3.40分												
3.40分-3.55分												
3.55分-3.70分												
3.70分-3.85分												
3.85分-4.00分												
4.00分-4.15分												
4.15分-4.30分												
4.30分-4.45分												
4.45分-4.60分												
4.60分-4.75分												
4.75分-4.90分												
4.90分-5.05分												
5.05分-5.20分												
5.20分-5.35分												
5.35分-5.50分												
5.50分-5.65分												
5.65分-5.80分												
5.80分-5.95分												
5.95分-6.10分												
6.10分-6.25分												
6.25分-6.40分												
6.40分-6.55分												
6.55分-6.70分												
6.70分-6.85分												
6.85分-7.00分												
7.00分-7.15分												
7.15分-7.30分												
7.30分-7.45分												
7.45分-7.60分												
7.60分-7.75分												
7.75分-7.90分												
7.90分-8.05分												
8.05分-8.20分												
8.20分-8.35分												
8.35分-8.50分												
8.50分-8.65分												
8.65分-8.80分												
8.80分-8.95分												
8.95分-9.10分												
9.10分-9.25分												
9.25分-9.40分												
9.40分-9.55分												
9.55分-9.70分												
9.70分-9.85分												
9.85分-10.00分												
合計												0

4.2 実践授業の分析結果

4.2.1 特別な教育的支援を要する抽出児

図4は主要4教科でAMを活用した際の結果である。グラフの一番左側である1回目（黒のグラフ）は、AMを使用していない状態の数値である。AMを活用することで、児童の「気になる」行動の数が減っている。学級によっては、半分近く減る効果も見られた。集中が難しい児童にとってAMの使用が効果的であることが示唆された。

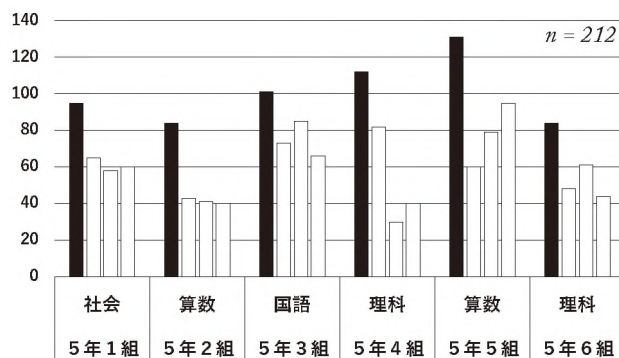


図4 主要4教科の検証データ（抽出児）

主要4教科は、AMを活用することによって一定の効果があることが示された。しかし、教科や単元の特徴、学習形態の違いにより検証に限界もあることから、本研究では書写の学習でもAMの活用回数を8回に増やし全学級で検証した。図5がその検証結果である。

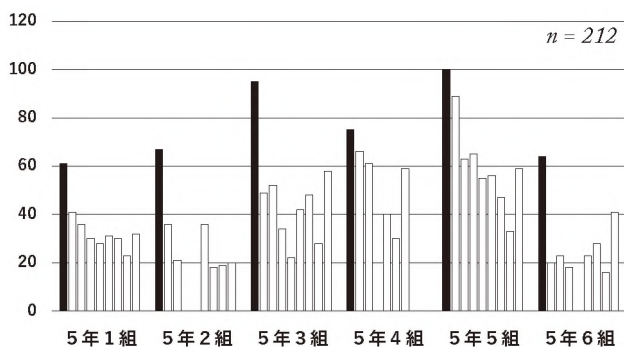


図5 書写の検証データ (抽出児)

どの学級の抽出児も、ベースラインで60回～100回の「気になる」行動が見られていたが、AMの効果音や視覚支援などの指示により明らかな減少が見られた。また、書写も含めどの教科でも活用しない授業と活用した授業では明確な差が出ていることから、教科等の特性によらず、AMが「気になる」行動の減少や行動支援につながっていることが示唆された。

4.2.2 通常の学級に在籍する定型発達児

図6と図7は定型発達児のAMを活用した授業としていない授業の結果である。データからは先に考察した抽出児の結果と同じ傾向が示されている。以上のことから、AMによる聴覚支援や視覚支援が特別な教育的支援を要する児童だけでなく、定型発達児にとっても有効なユニバーサルな支援であることが示されたと言えよう。

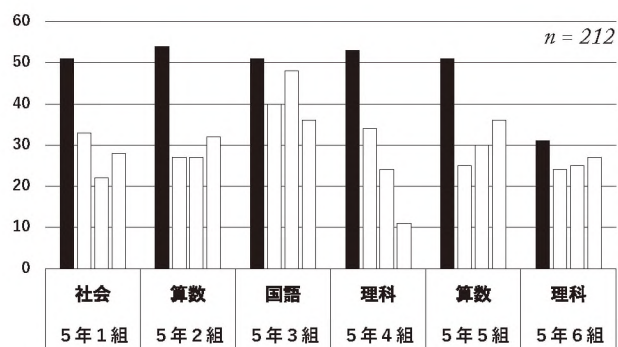


図6 主要4教科の検証データ (定型発達児)

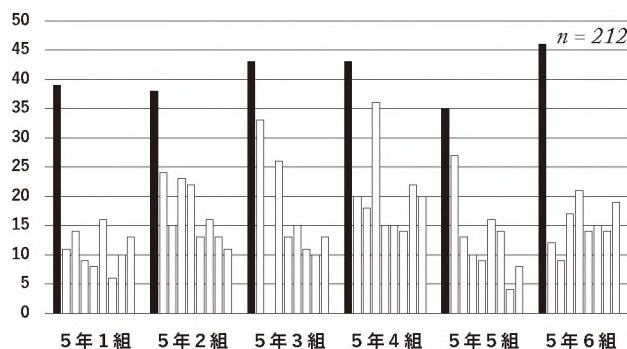


図7 書写の検証データ (定型発達児)

4.2.3 AMによる行動支援の検証

検証授業でのビデオ分析を進めていく過程で、抽出児、定型発達児の児童の「気になる」行動の減少は明らかになった。しかし、効果音や画像を見るだけであって教員の指示をきちんと聞いて行動に移しているのかはビデオ分析だけでは確認が困難である。

そこで書写の授業で書いた作品カードに学級・氏名が指示通りに書かれているかAMを使って検証した。

(1) 分析方法

書写「毛筆」の学習では、清書を書き終えた児童は、自分の作品を提出する。その際に、作品の感想を付箋に書き貼るようにした。付箋の表面は、作品の感想を書き、裏面は、クラス名と氏名を書くことをきまりとした。

(2) AM活用前後の記入率

204人の児童に対して、44名に記入漏れがあった。指示通りの記入率は、およそ78%であった。

AMの指示コマンド「付箋」図8を作り、提出する際に筆者が作成した動画で記入方法を確認させた。

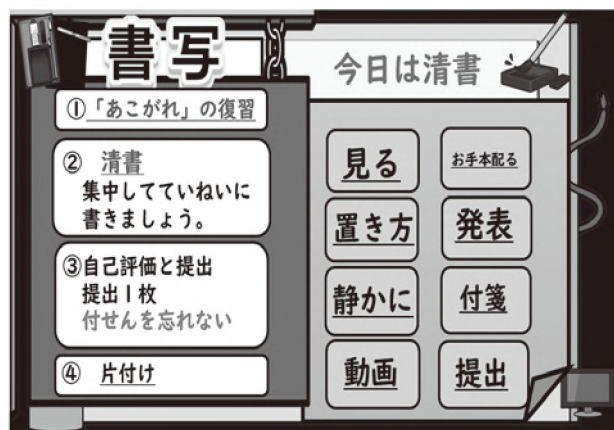


図8 アクションメーカー コマンド「付箋」

結果は、207名の児童に対して、9名に記入漏れがあった。記入率は、およそ95%となりAMの有効性が示された。

4.3 検証授業後のアンケート結果

4.3.1 児童への事後アンケート

回収率 96% (213名 / 220名)

児童へのアンケートはMicrosoft Formsにより選択式と記述式で調査した。

(1) 集中力への作用

AMを活用することで、約9割の児童が「とても集中できた・集中できた」と回答している。事前アンケートでは、集中できない理由としては、「ぼーっとしてしまう」や「別のことを考える」「手遊びをしてしまう」等の意見が多く出ていたが、AMを活用することが児童の気になる行動を軽減する作用があることを示している。(図9)

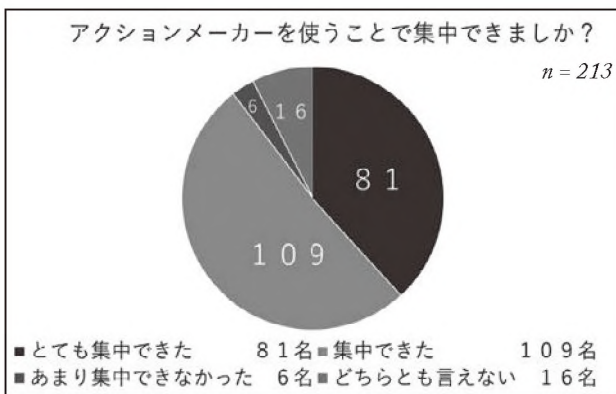


図9 児童の集中力に関するアンケート

(2) AM活用後の評価

AM活用後の児童アンケートでは、「次の行動に移る効果音」や「分かりやすいイラストや動画」を全体の約7割が良いと回答している。これまでの授業では、あまり活用されてこなかった効果音は、児童の注意力や行動支援に一定の効果があることが指摘された。(図10)

記述回答の中では、「アクションメーカーのおかげで集中して勉強ができるようになった」や「他の教科でもアクションメーカーでやってほしい」、「イラストが面白くてそっちに集中できるから違うことを考えたりしない」等、学習に意欲的に取り組むことができたという回答が複数得られた。

一方で、少数ではあったが「静かにしてほしい時の音に、びっくりするから改善してほしい」や「集

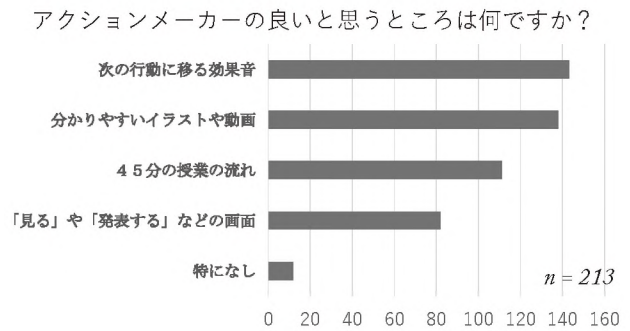


図10 児童へのAMに関するアンケート

中している時に、大きな音にびっくりする」など、音量についての改善や「もう少し効果音と画像を増やしてほしい」や「音・声などの効果音をもう少し増やしたらより興味を持ってもらえると思います」等、音や画像についての改善を求める回答が見られた。

以上のことから、少数ではあるが授業に集中している児童にとって効果音は、かえって集中力を弱めてしまう効果を生むことがわかった。また、画像や音の改善は、使用回数が増えたことによるAMのマネリ化から出た意見だと推測する。

4.3.2 授業者への事後アンケート

各学級の担任6名に選択式と記述式で「アクションメーカー使用時の抽出見の様子」、「クラス全体への効果」、「アクションメーカーを使ってみて」についてアンケート調査を行った。

抽出見の様子については、「これまでは授業中に手遊びが多かったが、楽しみながら学習に取り組めるようになった」や「やることの見通しがもてた」等、AMの活用によって、指示されることなく活動できることが増えたとの回答を得た。

クラス全体への効果は、「ノートやプリントの書き方を提示したことで、記入漏れがなくなり、まとめ方も上手になった」や「普段目が合わない子が注目していた」等、学級全体での指示や活動に役立ったという回答を得た。

アクションメーカーを使った感想では、「45分の流れが、教師も児童も分かり、授業の見通しがつく」や「学年で共有することで教材研究の時間を減らすことができた」という学習面での効果や「声だと注意になるが音だと注意にならないため雰囲気が悪くならない」や「効果音は子どもの注目する時の集中力、速さに違いがあり効果的だった」等、行動

面での有効性について回答を得た。

一方で、「毎時間、作成することは難しい」や「教師自身が使いこなすには慣れが必要だと感じた」、「黒板での板書とAMの併用に悩む」等、作成や使用方法に課題があるとの回答が目立った。

5 総合考察

5.1 視覚と聴覚を併用する有用性

先行研究では、「視覚」の有用性についての指摘は多いが、「聴覚」についての言及は少ない。

本研究では、画像と共に「効果音」を活用した。多くの児童から、「授業がわかりやすかった」や「背景が黒で文字が白だったので見やすかった」などの好意的な回答が多く見られた。児童への「授業に集中しているか」についてのアンケートでは、AM使用前が、約7割が集中していると回答していたが、AM使用後は、約9割が集中していると回答した。

以上のように多くの児童から受け入れられ学習態度の改善にもつながった。AMは特別な教育的支援を要する児童だけでなく、全ての児童へ「あると便利で・役立つ」ユニバーサルな支援ツールとして支持されたと言えよう。

また、AMの効果音で注意を促し、大型ディスプレイでノートの見本を示すことで、これまでしていなかった板書を自主的に書き写すといった意欲面での児童の変化も確認できた。

一方で、AMの使用回数が増えると音や画像に慣れてしまい反応が薄くなる児童が存在していたことも事実である。指示画像「見る」では、音やイラストを変えたり、タイマーで注意を引きつけたりする等、3回のブラッシュアップを行った。今後も活用するうえで、児童の様子を見ながら、継続的に改善する必要性も示唆された。

5.2 教員にとっての有用性と今後の課題

授業者は、1単位時間(45分)の流れが把握できることや資料を簡単に提示することができ、学習指導に役立つという授業展開のしやすさへの評価を得られた。また、「声だと注意になるが音だと注意にならないため雰囲気が悪くならない」との声は大変示唆的であった。教員による指示・注意・叱責が多用されれば児童との信頼関係を損なう恐れがあり、教室が落ち着かなくなる要因の1つになる。その点

でもAMで児童の注目を引きつけることができたことは大きな意味があろう。

また、動画分析で明らかにされたことはAMで児童に指示をする前後に教員が一言添えることにより一層AMの効果が発揮されている場面があった。機械的にAMを活用するのではなく、教員の一連の指示の中でどの場面でどのように活用するかを検討することがAMの効果をより高めることになる。

一方で、時間が無い教員にとって、毎時間のAMの作成や改善は負担となる教員もいると思われる。AMを継続して活用していけば、作成や操作に慣れるので負担は軽減できるだろう。また、学年のそれぞれの教員がAMの作成を教科ごとに分担して組織的・計画的に展開することが今後は望まれる。

5.3 今後の課題

○効果音や画像による行動支援の反応は使用頻度が上がると効果が薄れていく。この課題克服のためにAMの効果音や画像を継続的に変えていく必要がある。

○AMは、教員にとってあれば便利なツールと考えられるが、作成に時間と労力がかかる。忙しい業務の中で作成していけるか、ICT機器の準備やトラブルに対応することができるか等、今後は教員のチームワークによって改善していく必要がある。

○AMの効果音は、聴覚過敏の児童にとっては、逆効果になることも考えられる。本人とも相談し、どのような音ならば許容できるかについて検討する必要がある。また、効果音を出す際には、口頭で「今から音が出ます」と伝えることや大型ディスプレイから流れる音量については、授業が始まる前に確認する等の配慮が必要となることが分かった。

6 倫理的配慮について

本研究における質問紙調査、ビデオ撮影では、事前に研究協力者に研究の趣旨を説明し、協力者の同意と許可を得て実施した。研究の趣旨や目的、研究協力者の個人情報保護の保護、権利の保障、データの厳重な取扱い等を説明し、承諾を得たうえで、研究に協力してもらった。また、分析結果のフィードバックを研究協力者に依頼し、修正・撤回を希望する箇所がないか確認する等配慮した。

引用・参考文献

- 堀田龍也 (2022) 「PC 1 人 1 台時代の間違えない学校 ICT」小学館
- 金森克也・梅田真理・坂井聡・宮永大悟 (2019) 「発達障害のある子の学びを深める 教材・教具・ICTの教室活用アイデア」明治図書出版
- 文部科学省 (2019) 「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚園・小学部・中学部) 開隆堂出版
- 新潟大学付属新潟小学校 (2017) 「ICT×思考ツールでつくる『主体的・対話的で深い学び』を促す授業」小学館
- 西尾環 (2021) 「タブレットで変わる授業デザイン」小学館
- 斎藤寛 (2011) 「心を動かす音の心理学 行動を支配する音楽の力」ヤマハミュージックメディア
- 佐藤里美 (2018) 「特別支援教育ですぐに役立つ！ ICT活用法 ソフトバンクによるモバイル端末活用研究「魔法のプロジェクト」の選りすぐり実践27」学研プラス
- 佐藤慎二 (2008) 「通常学級の特別支援—今日からできる！ 40の提案—」日本文化科学社
- 佐藤慎二 (2010) 「通常学級の授業ユニバーサルデザイン」日本文化科学社
- 佐藤慎二 (2014) 「今日からできる！ 通常学級ユニバーサルデザイン～授業づくりのポイントと実践的展開～」ジアース教育出版
- 佐藤慎二 (2014) 「実践 通常学級ユニバーサルデザイン I—授業づくりのポイントと問題行動への対応—」東洋館出版社
- 佐藤慎二 (2015) 「実践 通常学級ユニバーサルデザイン II—授業づくりのポイントと保護者との連携—」東洋館出版社
- 佐藤慎二 (2022) 「通常学級の「特別」ではない支援教育」校外支援体制・ユニバーサルデザイン・合理的配慮 東洋館出版社
- 菅新太 (2021) 「パワポdeデザイン PowerPoint っぽさを脱却する新しいアイデア」インプレス

〈資料〉

「教員への質問紙調査項目」

【教師用事前アンケート】

1 名前

2 経験年数

1年～5年 6年～10年

11年～15年 16年以上

3 担当する学年・教科

1年 2年 3年 4年 5年 6年

音楽 書写 英語 家庭科

特別支援 (知的) 特別支援 (自・情) その他

4 これまでに特別支援学級の経験はありますか

ある ない

5 特別支援が必要かと感じる児童に気づくきっかけはどんな時ですか。

授業中の行動 日常生活の様子

テストやノート、作成物

他機関や保護者からの連絡

6 今指導している児童の中で、授業中、教師の指示を聞き逃している、あるいは指示してから行動するまでに時間がかかる児童はいますか。

気になる児童が多くいる (3名以上)

気になる児童が数名いる (1～2名)

いない

7 上記の理由として考えられるものを教えてください。

手いたづら 窓の外を見ている

ぼーっとしている おしゃべり 落書き

8 その問題への支援は？

その都度、言葉で注意している

前置きの指示をする

事前に個別相談する

9 大型ディスプレイは活用していますか。

ほぼ毎日活用している

週に2～3回くらい活用している

あまり活用していない

全く活用していない

10 主にどの場面で活用していますか。

デジタル教科書

教科書やノートの書き方の手本

資料の提示

学習動画

11 活用しない方は理由を教えてください。

ICT機器の活用が難しい

ICT機器の操作や準備に時間がかかる

ICT機器のトラブルに対応できない

黒板のみで授業が成立するから必要ない

12 何らかの合図で音 (楽) を活用したことはありますか。

ある ない

13 それはどんな時ですか。

朝や帰りの準備 給食

そうじ 騒がしくなった時

全体指導を行う合図

- 14 授業中に音を活用することはありますか。
ある ない
- 15 それはどんな場面ですか。
始業・終業の合図 準備や片付け
クイズ 全体での大事な話などをする前
- 16 教室のユニバーサルデザイン化についてどのような取り組みを行っていますか。
教室正面を簡素にする
窓側のカーテンを閉める
教師机は整理整頓されている
一日のスケジュールを提示する
特に取り組んでいない
- 17 授業のユニバーサルデザインについて取り組んでいるものはありますか。
黒色のチョークの色の使い方
黒板での文字の大きさ
授業後に本時の流れがわかる板書構成
疑問をもてるような資料の提示
発言しやすい問いの工夫
特に取り組んでいない
- 18 授業で視覚支援と聴覚支援は有効だと考えますか。
どちらも有効だと考える
視覚支援は有効だと考える
聴覚障害は有効だと考える
どちらもあまり有効とは思えない

【教師用事後アンケート】

- 1 子どもの様子
- (1) アクションメーカー使用時の抽出児（教育的ニーズのある児童）の様子
とても変わった 変わった
少し変わった 変化なし
 ・抽出児の変化の様子など気づいたことを教えてください。
 ※自由記述
- (2) アクションメーカー使用時の定型発達児（学級）を含む全体の児童の様子
とても変わった 変わった
少し変わった 変化なし
 ・学級全体の児童の様子など気づいたことを教えてください。
 ※自由記述

- 2 使用してみて
- (1) アクションメーカーを使ってみて
とてもよかった よかった
可もなく不可もなく よくなかった
- (2) AMの良さ—自由記述
- (3) AMの課題—自由記述
- 3 アクションメーカーを作ってみて
簡単に作れた 時間がかかるが作れた
アドバイスをもらい作れた 作れない
- (1) 作ってみて良いと感じたこと ※自由記述
- (2) 作ってみて課題と感じたこと ※自由記述

「児童への質問紙調査項目」

【児童用事前アンケート】

- 1 勉強は好きですか。
とても好き 好き
あまり好きではない 好きではない
- 2 好きな理由を教えてください。
読む 書く 調べる 発表する
話し合い活動 テスト その他
- 3 好きでない理由を教えてください。
読む 書く 調べる 発表する
話し合い活動 テスト その他
- 4 好きな教科は何ですか。
国語 算数 理科 社会 音楽
図画工作 家庭 体育 道徳
外国語 総合的な学習の時間
- 5 授業中に集中できなかつたことはありますか。
よくある 時々ある
たまにある ほとんどない
- 6 集中できない時にしてしまう行動は何ですか。
窓の外や廊下を見ってしまう おしゃべり
ぼーっとしてしまう 立ち歩く
手遊び 別のことを考えてしまう
- 7 どんな授業が好きですか。
先生のわかりやすい説明
たくさん自分の意見が言える
実験やグループ活動など、友達と協力する
画像や動画などを見る
タブレットを使う活動
自分で問題をたくさん解く
その他

【児童用事後アンケート】

- 1 勉強は好きですか。
とても好き 好き
あまり好きではない 好きではない
- 2 好きな理由を教えてください。
読む 書く 調べる 発表する
話し合い活動 テスト その他
- 3 好きでない理由を教えてください。
読む 書く 調べる 発表する
話し合い活動 テスト その他
- 4 好きな教科は何ですか。
国語 算数 理科 社会 音楽
図画工作 家庭 体育 道徳
外国語 総合的な学習の時間
- 5 授業中に集中できなかったことはありますか。
よくある 時々ある
たまにある ほとんどない
- 6 集中できない時にしてしまう行動は何ですか。
窓の外や廊下を見てしまう おしゃべり
ぼーっとしてしまう 立ち歩く
手遊び 別のことを考えてしまう
- 7 どんな授業が好きですか。
先生のわかりやすい説明
たくさん自分の意見が言える
実験やグループ活動など、友達と協力する
画像や動画などを見る
タブレットを使う活動
自分で問題をたくさん解く
その他
- 8 アクションメーカーを使った授業はどうでしたか。
とても楽しい 楽しい
ふつう 楽しくない
- 9 アクションメーカーを使うことで授業に集中できましたか。
とても集中できた 集中できた
あまり集中できなかった どちらとも言えない
- 10 アクションメーカーを使った授業はわかりやすかったですか。
とてもわかりやすかった
わかりやすかった
少しわかりにくかった
とてもわかりにくかった
- 11 アクションメーカーの効果音はどうでしたか。
鳴ると注目できた 鳴ると少し注目できた
鳴ると気になるが注目しなかった
鳴っても気にならなかった
- 12 アクションメーカーの画像や動画、イラストはどうでしたか。
とてもわかりやすかった
わかりやすかった
あまりわからなかった
全くわからなかった
- 13 アクションメーカーのよいと思った画面や音はありますか。
45分の授業の流れがわかるところ
「見る」や「発表する」などのやることをつたえる画面
次の行動にうつる時の効果音
わかりやすいイラストや画像、動画
とくにない
その他
- 14 その他で何かありますか。
※自由記述
- 15 自分があったらよいと思うアクションメーカーの画像や音などがあれば教えてください。
※自由記述